

フッ化物洗口によるムシ歯予防は旭川地区の歯科医療費の減少、 また一般医療費の減少にも大きくつながります

4歳～14歳の頃のフッ化物洗口が、子供のムシ歯予防に効果があること、全身的な影響はなく安全であることなどについて、今まで数回に渡ってご説明させて頂きました。今回は大人になってもその効果が持続すること、そして高齢者の方でも健康な歯が残っているほど歯気になりにくいこと、そのため医療費の削減にもつながる事などをご説明させて頂きます。

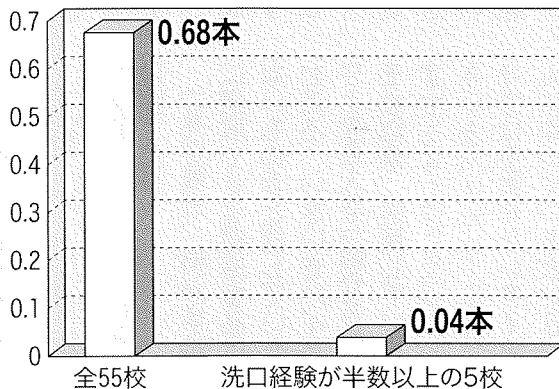
① 旭川市内の小学校1年生一人あたりの平均ムシ歯本数（永久歯）を調査しました

平成19年度旭川市の学校歯科健診では、小学校55校を検診しています。

幼稚園、保育所のいずれかでフッ化物洗口を経験した児童が50%を超える小学校は5校ありましたが、その5校は全小学校55校に比べて、小学1年生で17倍もムシ歯が少ないことが示されました。治療費も少額ですむので、その経済効果は大きいと思われれます。

学校歯科健診後に、一定所得以下のご家庭に歯科治療費補助の目的のため市町村から渡される学校医療券の削減にもつながり、社会的に見ても財政面で効果があると考えられます。

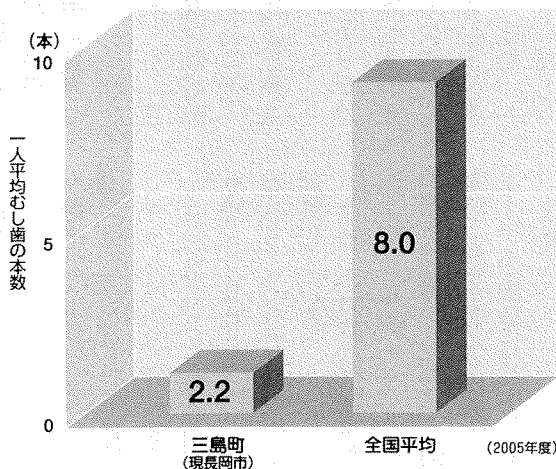
平成19年度旭川市学校歯科健診結果



② フッ化物洗口を早くから実施している新潟県の調査結果を紹介します

新潟県は1970年から小学校でのフッ化物洗口を開始し、現在、県の約6割の小学校でフッ化物洗口を行っています。全都道府県の中で9年連続してムシ歯本数が一番少ない県であって、昨年（2009年）にはその取り組みが評価され全国知事賞が授与されました。フッ化物洗口を実施している新潟県三島町の調査を紹介します。20歳時点の一人あたりのムシ歯の本数を、三島町と全国とで比較しました。全国では一人平均のムシ歯本数が8本であったのに対して、三島町では2.2本しかありませんでした。

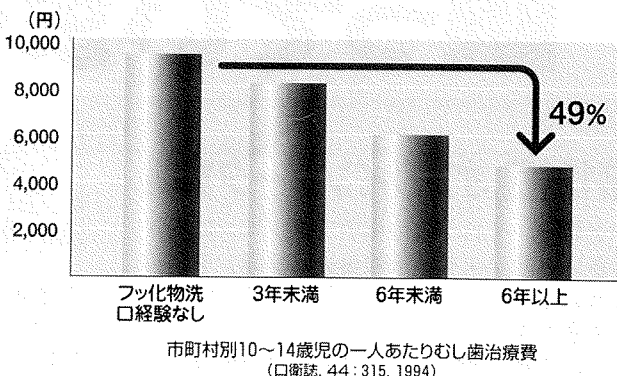
20歳の歯科健診では…



永久歯が萌えそろう時期にフッ化物洗口をすることは、子供のムシ歯予防にとどまらず、大人になってもその効果が持続することが理解できます。

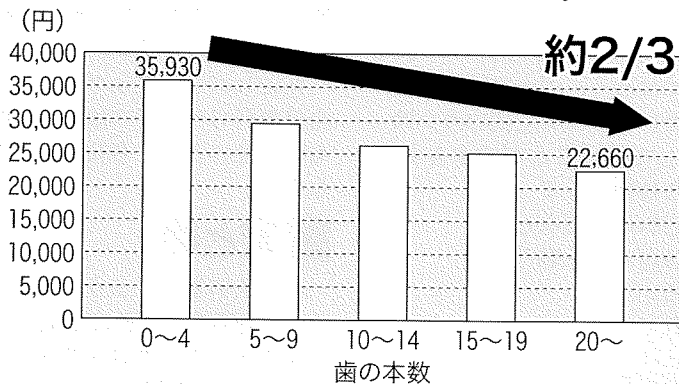
③ フッ化物洗口を長期実施している市町村では歯科治療費が抑制されています（国民健康保険による歯科治療費）

フッ化物洗口を長期間実施した市町村は子供一人あたりの歯科治療費は低い傾向にあり、未実施市町村の約半分という結果が示されました。



④ 高齢者の歯の本数と医療費の関連

下の図は、北海道国民健康保険団体連合会が2007年5月の医療費を調査したもので、医科診療費（歯科に限らない）と高齢者（70歳以上）の残存歯数を比較しています。自分の歯が20本以上ある高齢者は、歯がほとんどない高齢者に比べて、医科診療費が約2/3に抑えられているという驚くべき結果が得られました。



小学校等でのフッ化物洗口は、家庭環境、家庭間の健康認識格差に影響を受けない唯一の方法です。全員が一樣に安全に、そして低価格で健康を享受できます。旭川歯科医師会が社会的使命感から取り組んでいる小学校等でのフッ化物洗口は、純粋な公衆衛生活動そのものです。この活動に対して、過去の誤った学説の一部を引用し、フッ化物洗口が有害であるかのように喧伝する行為は許されるものではありません。PTAの皆様、市民の方々からの後押しで、ムシ歯予防に一番重要な小学校でのフッ化物洗口が推進されますことを期待いたします。旭川市そして上川地方の小学校でムシ歯ゼロを目指しましょう、不可能ではありません。日本一の健康都市、健口都市にしようではありませんか。